

2026 年 9 月 8 日

報道関係各位

三菱地所株式会社

有楽町の“働く日常”をアップデート、就業者ラウンジ「lounge Ö」が誕生 既存ビルリニューアルで“まちまるごとバリューアップ”を加速

16 拠点目の就業者向け共用ラウンジ、9 施設目のフレキシブルオフィス「xLINK 丸の内新国際」を整備

三菱地所株式会社は、大手町・丸の内・有楽町エリア（以下、丸の内エリア）全体をプラットフォームと捉え、テナント個社単独では実現しにくい取り組みをエリア全体で提供することで、多様な働き方や交流を支える丸の内“まちまるごとワークプレイス”構想を推進しております。その重点施策の一つである“まちまるごとバリューアップ”の一環として、このほど「新国際ビル」に就業者向けラウンジ「lounge Ö（ラウンジ オー）」を開設したほか、フレキシブルオフィス「xLINK（クロスリンク）丸の内新国際」を整備しました。

有楽町では、「(仮称) 丸の内 3-1 プロジェクト（国際ビル・帝劇ビル建替計画）」の建替え・開発のほか、「新東京ビル」の大規模リニューアルによる機能更新に加え、「有楽町ビル・新有楽町ビル」の建替計画に先立ち、新ビル建設までの暫定利用期間に展開する「YURAKUCHO PARK」などを進行中です。

「新国際ビル」においても、路地空間を公園機能にリニューアルする「有楽町 SLIT PARK」や屋上空間の整備、館内動線の改善など、継続的な価値向上施策を実施してきました。今回の「lounge Ö」や「xLINK 丸の内新国際」の新設は、これまでの取り組みを継承しながら、有楽町駅前に位置する立地特性を活かし、就業者が日常の中で気軽に立ち寄り、思い思いに過ごせるラウンジ機能を整備するとともに、フレキシブルオフィスを整備することで、丸の内エリア全体の価値向上を企図しています。

就業者ラウンジ「lounge Ö」（新国際ビル B1・1F）

利用対象：新国際ビル・新日石ビル・新東京ビル・丸の内二重橋ビル・有楽町電気ビルで働く「MARUNOUCHI WORKERS」会員



イベント開催もできるラウンジスペース



カフェ機能「Baiten」



有楽町駅前という立地特性を活かし、まちのバリューアップへ



「新国際ビル」外観

xLINK 丸の内新国際（新国際ビル 1・2F）

利用対象：xLINK 会員企業



xLINK 共用ミララウンジ



xLINK セットアップオフィス／コミュニケーションスペース

三菱地所は今後も、就業者ラウンジやフレキシブルオフィスの整備といった働く環境の向上のほか、エリアマネジメントなど多様な取り組みを通じて、丸の内エリア全体の価値を高めながら「ここで働きたい、ここにオフィスを構えたい、ここに訪れたい」と思われ続けるまちづくりに取り組んでまいります。

■「新国際ビル」リニューアルについて

【情報発信機能を備えた就業者ラウンジ「lounge 0」を新設】

「lounge 0」（約 520 ㎡）は、新国際ビル 1 階および地下 1 階に整備した有楽町の就業者向けラウンジです。名称に用いた「0」には、働く時間の中でひと呼吸おく“余白”と、そこで生まれる小さな気づきや新たな視点が、日常の景色を少しずつ変えていくという想いを込めています。有楽町駅前という立地を活かし、変化を続けるまちと就業者をつなぐ接点として、エリアの最新情報やイベント等を発信する拠点機能も担います。



企画・運営は、「都市の編集者」をコンセプトに、まちにユニークな化学変化を起こし続けている Media Surf Communications Inc.、空間デザインは、建築、インテリア、家具、照明、プロダクトまで、領域を横断しながら空間を総合的にデザインする芦沢啓治建築設計事務所が実施。3 社が連携し、コンセプト策定から企画、空間づくりまでトータルで手掛けることで、再開発が続く当エリアにおいて、訪れる人がひと呼吸おきながら、このまちの新たな可能性や“変わる有楽町”を感じてもらえる空間を整備しました。



ラウンジ内には、カフェ機能「Baiten」を導入するほか、テーマごとの選書やブックエクステンジ機能を備えた「ライブラリー」を設置。さらに、イベントや交流会など多様な用途で利用できる貸切可能なスペースも設け、就業者コミュニティの形成や企業間交流を促進します。なお、2022 年 2 月にスタートしたアートを軸にしたイノベーション創出のプラットフォーム「[YAU \(ヤウ/Yurakucho Art Urbanism/有楽町アートアーバニズム\)](#)」プロデュースのアートを掲出し、食・本・アートとの偶然の出会いを通じて、働く日常に新たな刺激や発見をもたらす環境を提供します。



▲季節ごとにテーマや本が変わり、利用者が本を持ち寄り、交換することで、少しずつ表情を変えていく「ライブラリー」



▲メディアサーフ運営のカフェ機能「Baiten」。コーヒーや軽食、日常を少し楽しくするアイテムなどを揃え、働く人に“ひと呼吸おける余白”を届ける



▲「Baiten」購入者限定のラウンジエリア

<ラウンジの壁面で定期的に YAU のアート作品が入れ替わる取り組み「YAU WALL Ö」について>

2022 年 2 月にスタートした、まちがアートとともにイノベティブな原動力を生み出す実証パイロットプログラム「YAU（有楽町アートアーバニズム）」において、本ラウンジの壁面を使ってアート作品を展示する「YAU WALL Ö」が今般始動。本取り組みでは、丸の内エリアワーカーに向けて YAU アーティストの作品を定期的に入れ替えて、展示壁で発表していく。

※現在は #01 を展示中で、月 1 回を目安に順次入れ替えていく予定。#02～#03 の写真は今回展示予定の作品ではなく、当該アーティストの過去作品。



YAU WALL Ö #01
前田梨那『floaters -tokyo-』(2026)

アーティスト。1997 年神奈川県生まれ。失った物の再現と失散、他者との扉としての作品制作をしている。本作ではレジンに移された像を通して丸の内駅の風景を撮影した。



YAU WALL Ö #02
おつきしゅうと

グラフィックデザイナー。1996 年東京生まれ。グローバル資本主義時代のビジュアルマスコミュニケーションの更新を目指し、グラフィックデザイン、アートディレクションを行う。



YAU WALL Ö #03
児嶋啓多

アーティスト。1985 年兵庫生まれ。都市へのつばやきや問いを起点に、職人的手仕事と AR（拡張現実）を用いて、言葉の意味や文字のかたちの関係性を視覚的に探求した作品を制作している。

<「lounge Ö」を情報発信拠点として活用した事例>



有楽町の今後をともに考え、楽しむために、人が集う場に欠かせない「お酒」に着目した「Yurakucho Spirits Project」が始動。9 月 3 日にはそのお披露目イベントを開催し、参加者は“変わる有楽町”のわくわくを表現したジンの試飲を楽しんだ。



丸の内エリアで働く 35 歳以下の若手社会人を対象としたコミュニティ「URBAN CANVAS(アーバンキャンパス)」の交流イベントを 9 月 4 日に開催。当日はコミュニティオリジナルのコミュニケーションカードを活用し初対面でも深く会話できるきっかけを提供した。

新国際ビル」における今回の取り組みは、丸の内エリア全体をプラットフォームとして価値向上を図る「まちまるごとワークプレイス」構想および、その重点施策である“まちまるごとバリューアップ”の一環です。三菱地所では、新規ビルの建替え・開発だけでなく、既存ビルのリニューアルなど、多様な手法・アプローチでまちの価値向上に取り組んでいます（下図は一例）。



▲丸の内“まちまるごとワークプレイス”構想の取り組み（一部）。エリア全体で価値を提供

【「xLINK 丸の内新国際」を整備（2026 年 4 月オープン）】

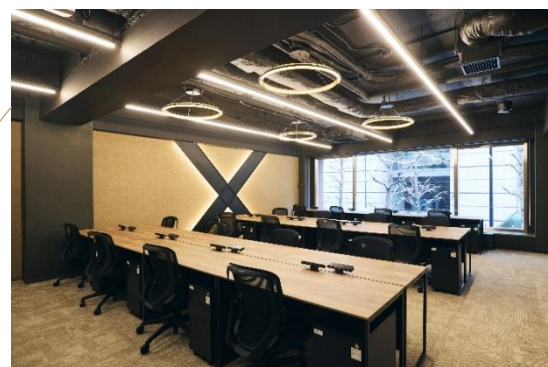
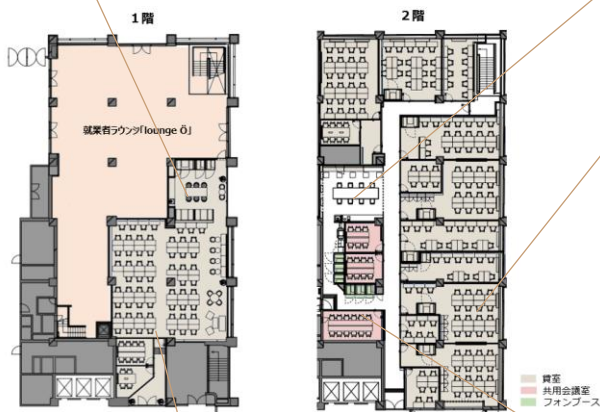
三菱地所が丸の内エリアで展開するフレキシブルオフィス「xLINK」を新国際ビル1・2階に整備しました。全体面積は1,018 m²、個室は13室で、内部階段で「lounge 0」と繋がる設計です。企業のプロジェクト拠点やサテライトオフィス、本社機能の拡張などに対応し、日常の執務だけでなく、打合せや交流、リフレッシュなど多様な利用シーンに対応する環境を整備しました。近年、企業を取り巻く環境変化や事業成長のスピード加速を背景に、オフィスには従来の執務機能に加え、多様な働き方や柔軟な利用形態への対応が求められています。三菱地所では、こうしたニーズに対応するため「xLINK」の展開を進めており、「xLINK 丸の内新国際」で9施設目となります。



xLINK セットアップオフィス／コミュニケーションスペース



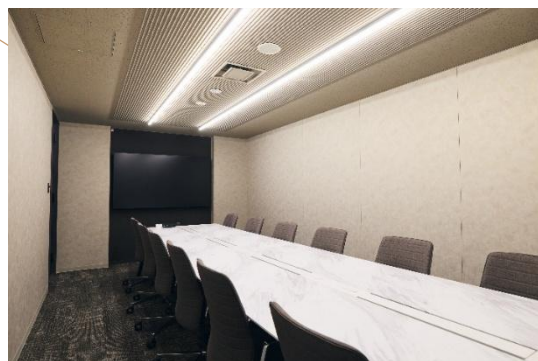
xLINK 共用ミニラウンジ



xLINK 個室

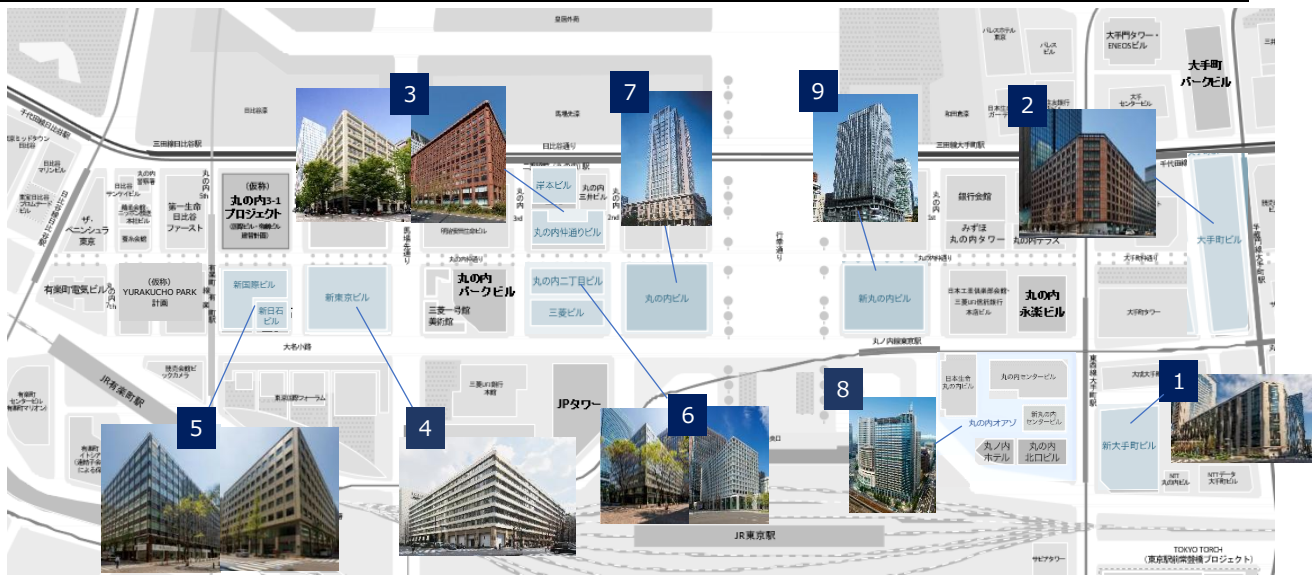


xLINK セットアップオフィス／執務スペース



xLINK 共用会議室

(ご参考①) 丸の内エリアにおける既存ビルリニューアル・リノベーション事例



1 新大手町ビル(1958年竣工)

時代の変化に対応した快適なオフィス空間を提供すべく、ビルのグレード・機能更新を図るため、全館リニューアルを2001年に実施。
2024年、3階に就業者用ラウンジを新設し、エレベーターホール・共用廊下も併せてリニューアル。また「xLINK 大手町」の3期増床、気候テック領域における国内初のイノベーション拠点「0 Club (ゼロクラブ)」を新設した。



2 大手町ビル(1958年竣工)

2022年に大規模なリノベーションを完了。外装デザイン(外装素材・窓ガラス等)の更新や、約4,000㎡の屋上に緑あふれるワークスペース等の整備に加え、就業者やエリアワーカー向けの共用ラウンジ・テラスを開設。建物東側を「LABゾーン」と位置付け様々な人・企業が交流する拠点として運営。



3 丸の内仲通りビル(1963年竣工)・岸本ビル(1980年竣工)

ビル間の通路空間に、ウッドデッキやベンチを設置し、緑に囲まれたほっと一息つける広場「丸の内 WALK」として2006年に整備。

4 新東京ビル(1963年竣工)

オフィスワーカーだけでなく、すべての来街者に開かれた楽しめるビルを目指して、大規模リニューアルを実施中。2024年11月、1階食物販店舗のオープンにあわせてピロティ空間を整備。



5 新国際ビル(1965年竣工)・新日石ビル(1981年竣工)

2022年に有楽町再構築を体現する既存ストックの活用プロジェクトとして、両ビル間の路地空間をリニューアルし、都市の隙間の公園機能として「有楽町『SLIT PARK』」を整備。まちに開かれた拠点として、キッチンカーや路外ショップによる飲食・物販サービス、アートの設置やイベント開催など多目的な空間に。今般、新国際ビルに就業者向けラウンジを整備した。



6 三菱ビル(1973年竣工)・丸の内二丁目ビル(1964年竣工)

2024年7月、ビル1階外構部と通路空間をリニューアルし、大規模な花壇を設置して月替わりで季節の植物を彩るプロジェクト「Marunouchi Bloomway (丸の内ブルームウェイ)」を本格始動。東京駅と丸の内仲通りをつなぐ歩行空間機能を高め、まちの賑わいや回遊性を創出。



7 丸ビル(2002年竣工)

開業20周年を迎えた2022年から翌年春にかけて段階的にリニューアル。3階ペールームの改修をはじめ、2～4階の共用スペース(通路・化粧室等)のデザイン変更、B1階のフードゾーン「マルチカ」全面リニューアルなどを実施。さらに2025年にかけて共用部リニューアル、8階・27階にラウンジを開設。



8 丸の内オアゾ(2004年開業)

2024年9月に開業20周年を迎えたオアゾでは、より明るく賑わいある空間づくりをめざし2025年秋にかけて段階的にリニューアルを実施。1階アトリウムおよび飲食フロアの5・6階もリニューアルを行った。



9 新丸ビル(2007年竣工)

開業15周年を迎えた2022年から翌年春にかけて段階的にリニューアル。丸の内仲通りに面したビル1階外構部には、誰でも気軽に利用できるテラス席を設置。“まちのゲストハウス”として個性豊かなレストラン・バーが集まる7階「丸の内ハウス」は全面リニューアル。



(ご参考②) 有楽町のまちづくりの歩み

有楽町は、ショップ・レストラン、劇場、ホテル、オフィスなど、多様な都市機能が重なりながら、時代とともにその表情を変えてきたまちです。三菱地所は、この有楽町において、既存ビルのリニューアルや公共空間の活用、アートなどの取り組みを重ねながら、まちの新たな価値創出に取り組んできました。これまでの蓄積を活かしながら、再開発や暫定利用、既存ストックの活用を通じて、これからの有楽町のまちづくりを進めていきます。

(関連プレスリリース)

- ・2026年 8月 「YURAKUCHO PARK」新築工事着工
- ・2024年 12月 (仮称) 丸の内3-1プロジェクト(国際ビル・帝劇ビル建替計画)始動
- ・2024年 7月 「新東京ビル」大規模リニューアル
- ・2022年 5月 「有楽町『SLIT PARK』」オープン
- ・2022年 1月 「アートアーバニズム」のパイロットプログラム『YAU』2月1日(火)始動
- ・2020年 8月 新東京ビルに「Shin Tokyo 4TH」オープン

（ご参考③） 丸の内“まちまるごとワークプレイス”構想

三菱地所は丸の内エリアのまちづくり「丸の内 NEXT ステージ」として、丸の内エリアの両翼に位置する「常盤橋」と「有楽町」を重点開発エリアに位置付けています。

常盤橋の「TOKYO TORCH」では日本一の高さとなる「Torch Tower」（2028 年度竣工予定）の建設を進め、有楽町の「YURAKUCHO PARK」では人々の創造性を解き放ち、文化と交流が生まれる都市空間づくりに挑戦。数年間の暫定利用期間だからこそ実現できる挑戦や価値創出を、将来の「有楽町ビル・新有楽町ビル建替計画」へと発展させていきます。加えて、「（仮称）丸の内 3-1 プロジェクト（国際ビル・帝劇ビル建替計画）」の再開発や「新国際ビル」の就業者ラウンジ整備など、暫定利用・再開発・既存ビルリニューアルといった様々な手法を通じて、有楽町の再構築に取り組んでいます。

なお、2025 年 5 月に「丸の内 NEXT ステージ」における施策の一つとして、エリア全体をプラットフォームと捉え、テナント個社単独では実現しにくい取り組みをエリア全体で提供する「まちまるごとワークプレイス構想」を掲げています。

<丸の内“まちまるごとワークプレイス”構想>

丸の内エリアの特性の一つは、135 年以上にわたるまちづくりを通じてお客様や様々なステークホルダーと共に築き上げてきた「利便性と集積」です。

その特性を踏まえ、テナント企業が自社オフィスだけでは実現できないことや、個社単独の取り組みでは実現しにくいことを「まちまるごと」でサポート、エリア全体がプラットフォームとして機能することで、働き方の質や効率を高めます。



▲まちまるごとワークプレイスのイメージ

参考リリース： https://www.mec.co.jp/news/detail/2025/05/22_mec2500522_machi